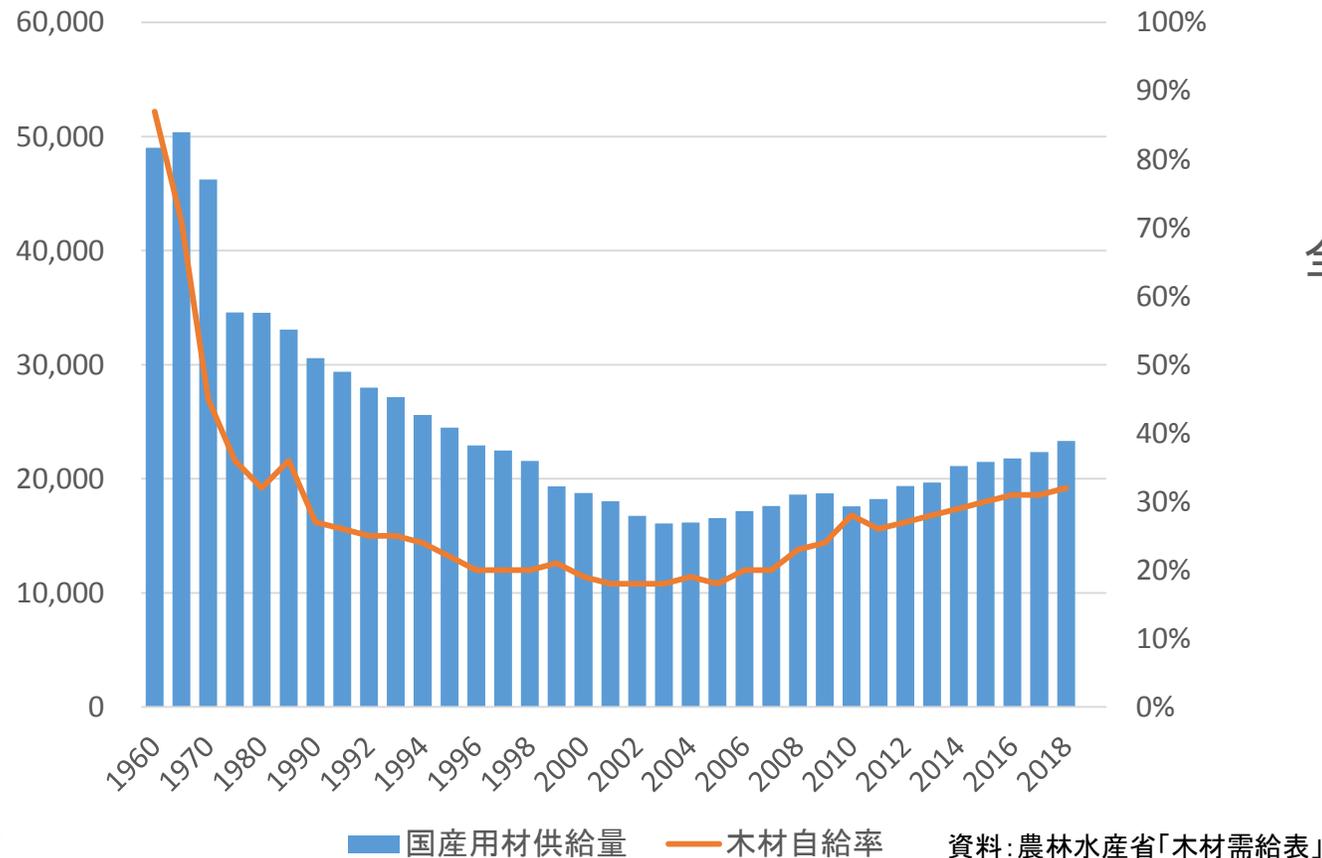


本県の森林・林業をめぐる現状と課題について

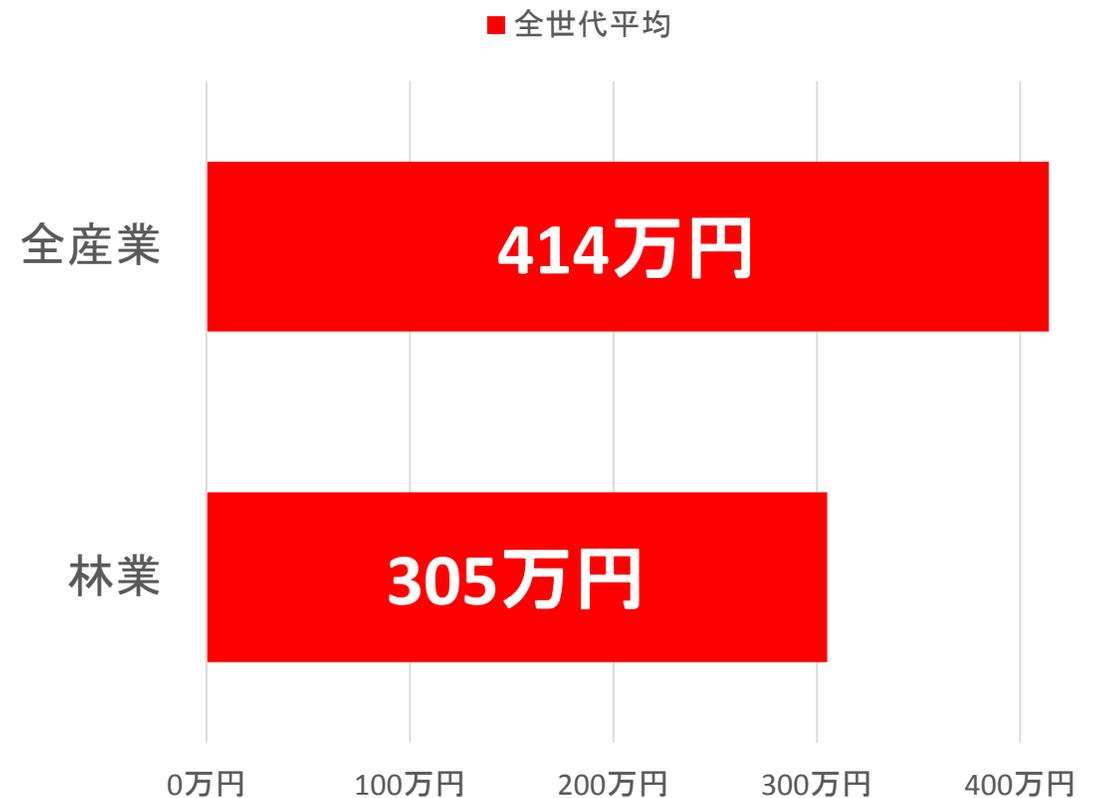
1 林業経営の現状

- ◆ 合板材やエネルギー利用の需要の増加等により国産材の生産量・木材自給率ともに上昇傾向が続いている。
- ◆ 林業所得は、全産業に比べて低い水準にある。

木材自給率及び国産用材供給量の推移



年間平均所得



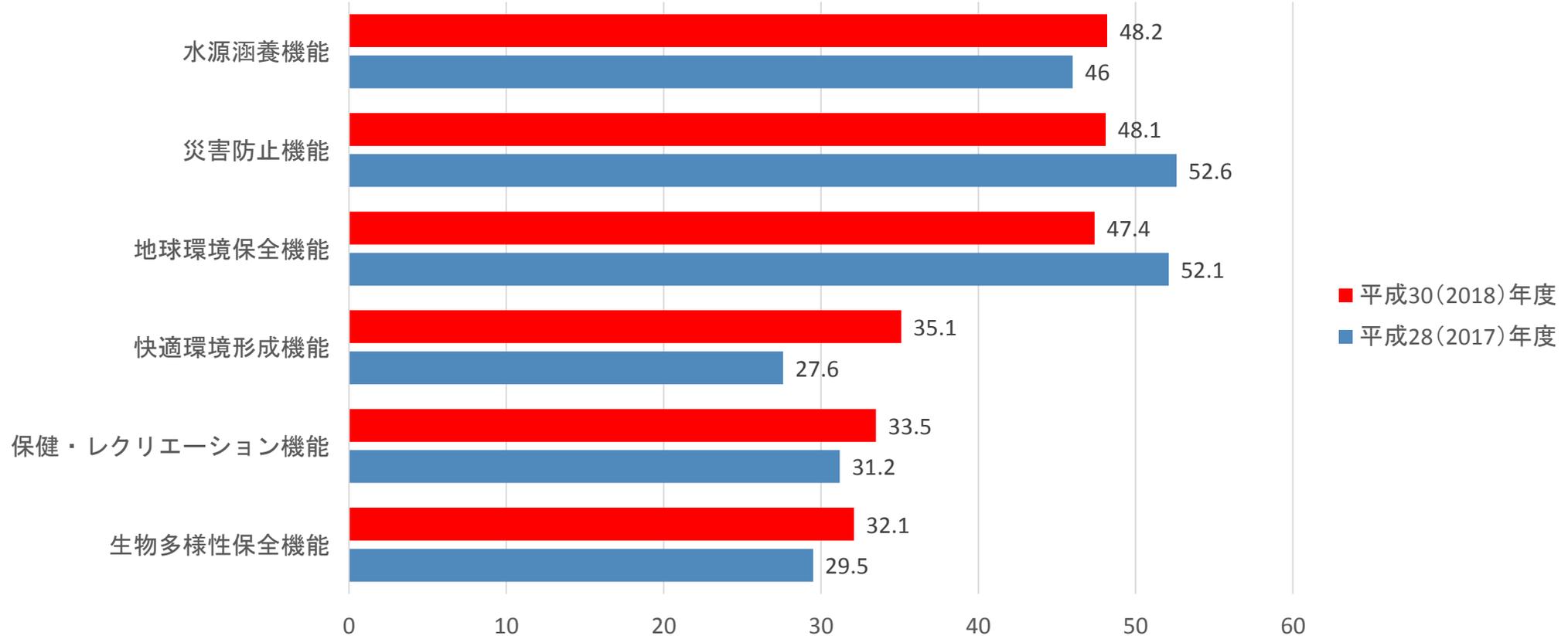
資料: 林野庁「一目でわかる林業労働力」
国税庁「民間給与実態統計調査(平成25年度分)」



2 森林の多面的機能の重要度

- ◆ 水源涵養機能や、災害防止機能など森林本来の機能が、引き続き、上位に位置している。
- ◆ 快適環境形成機能や、保健機能などについても重要との認識が広がり、森林の多面的機能への理解が広がっている。

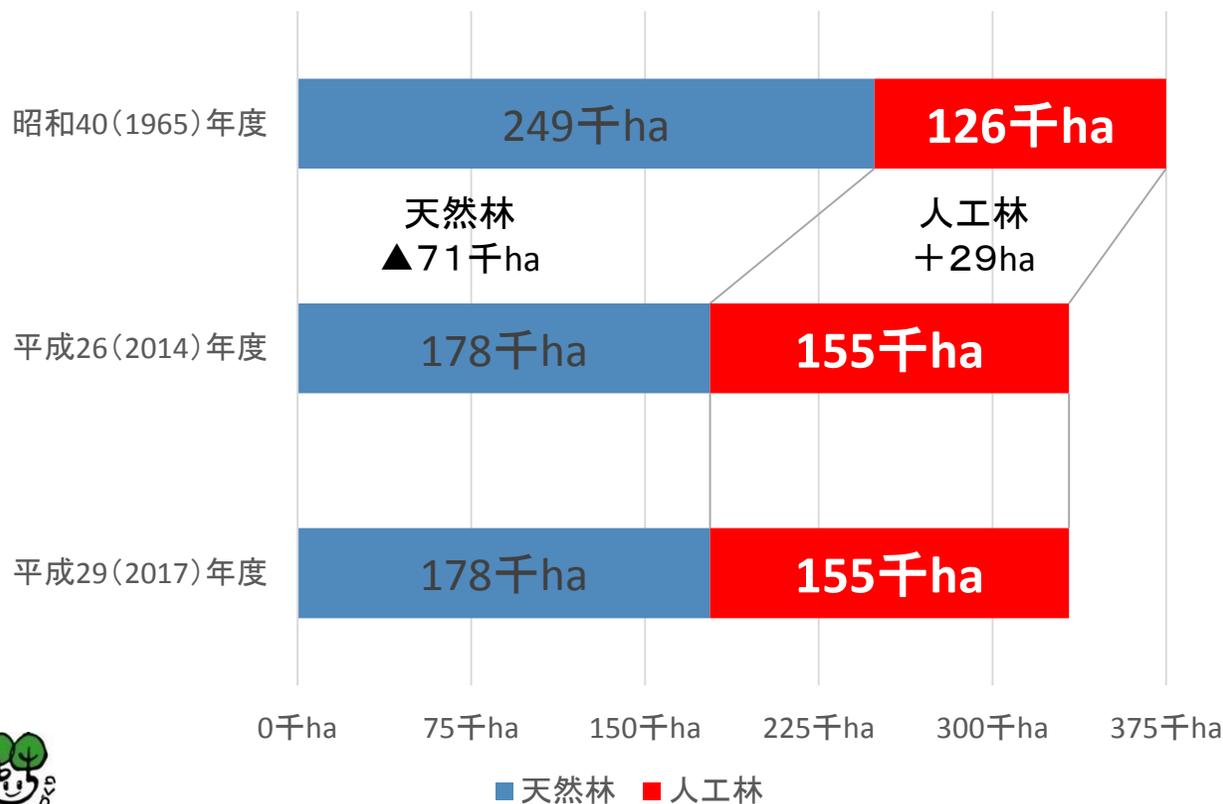
県民が重要と考える森林の多面的機能



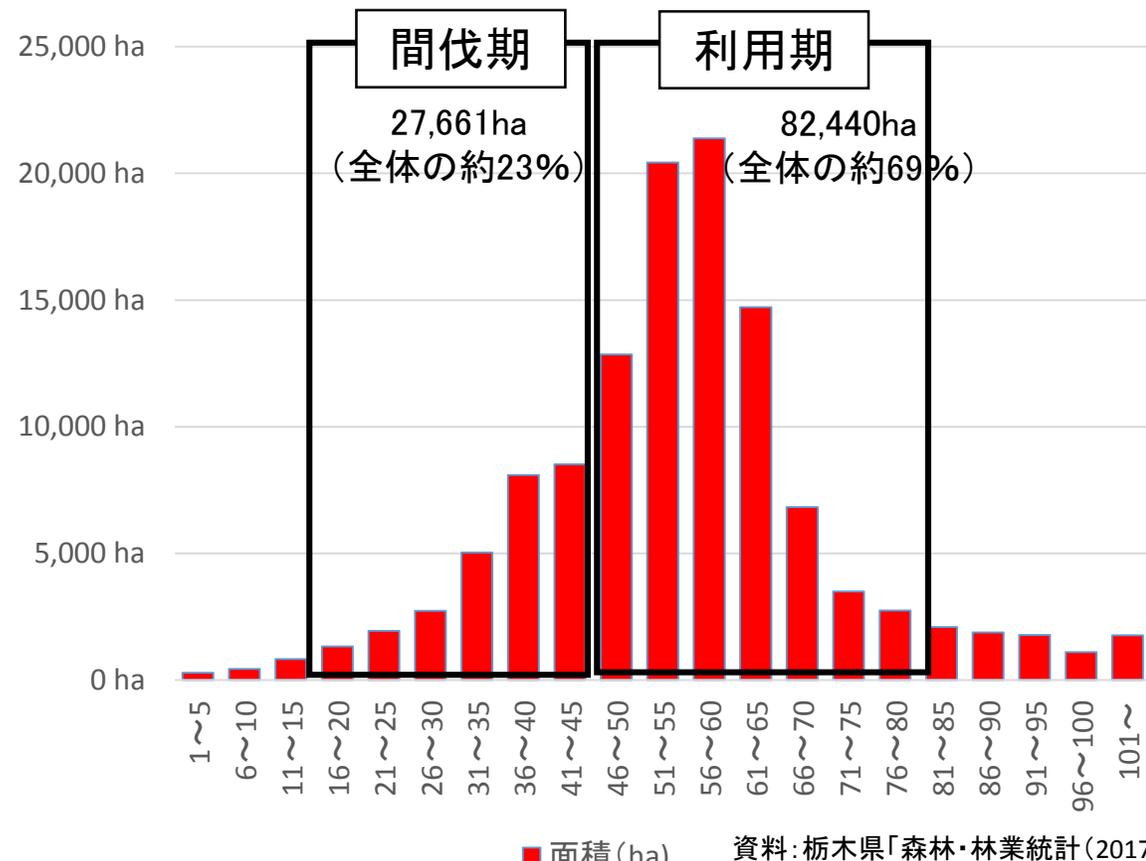
3 人工針葉樹林の林齢構成

- ◆ 戦後の木材需要に応えるため、天然の広葉樹林を伐採し、人工の針葉樹林(スギ・ヒノキ林)を拡大してきたが、木材需要は低迷
- ◆ 民有人工針葉樹林の多くは、16～45年生の間伐期から45年生以上の本格的な利用期に移行しており、間伐が必要な森林は減少し、木材利用と森林の若返りが必要

栃木県の人工林・天然林の面積の推移



栃木県の民有人工針葉樹林の林齢構成



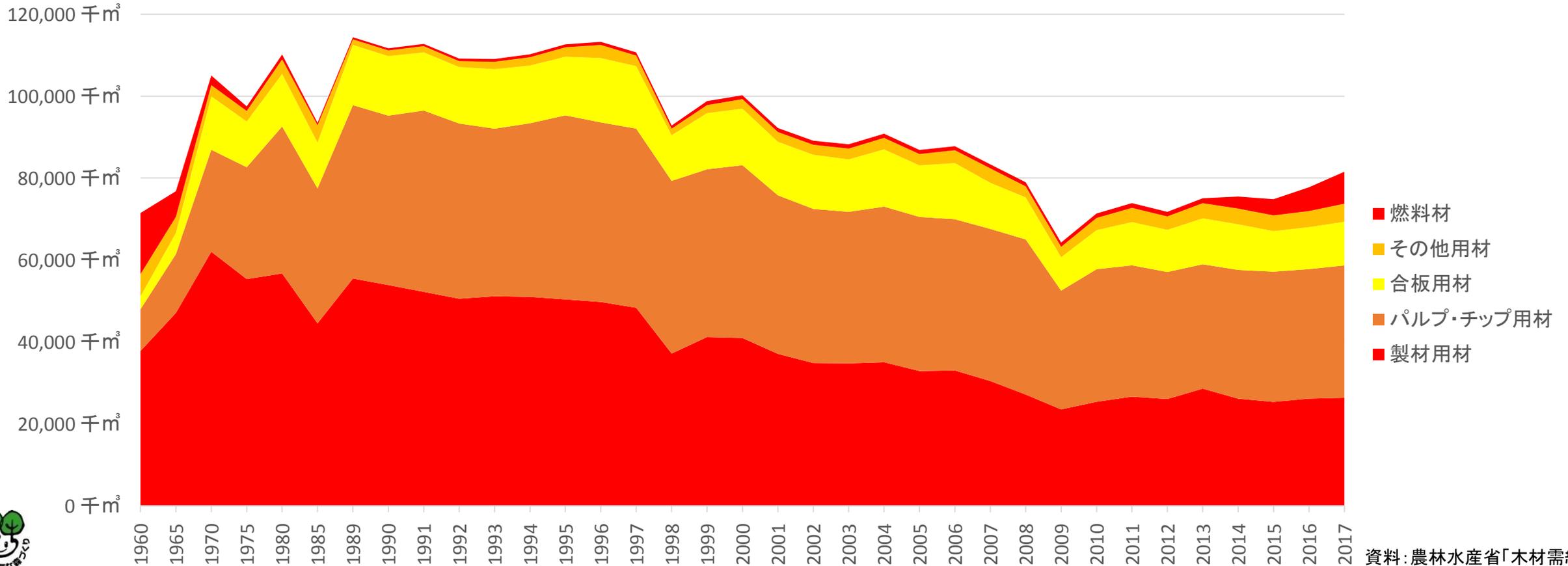
資料: 栃木県「森林・林業統計(2017)」



4 木材需要構造の変化

- ◆ 木材需要は、住宅様式の変化等に伴い、柱材などの製材用木材が減少している。
- ◆ CLT(直交集成板)の開発や木質バイオマス発電施設の増加等から、合板用材、パルプ・チップ用材、燃料材が増加傾向にある。

全国の用途別木材需要量の推移



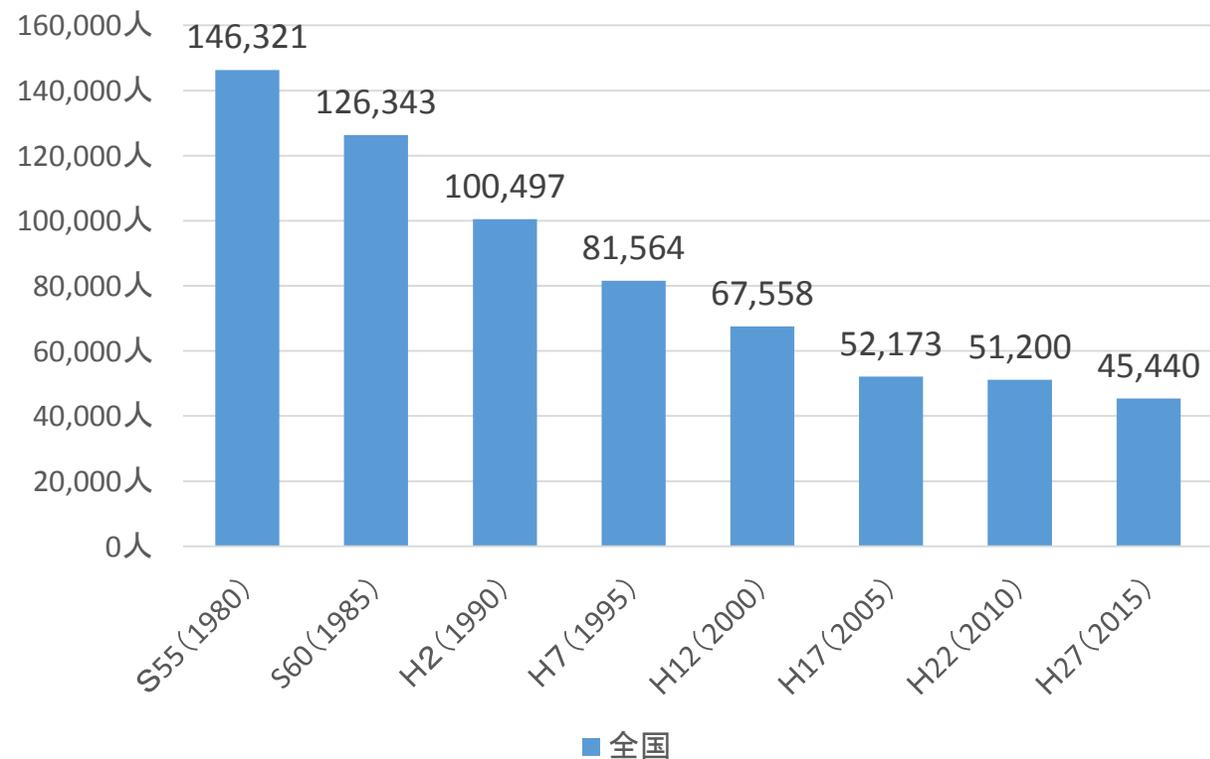
資料：農林水産省「木材需給表」



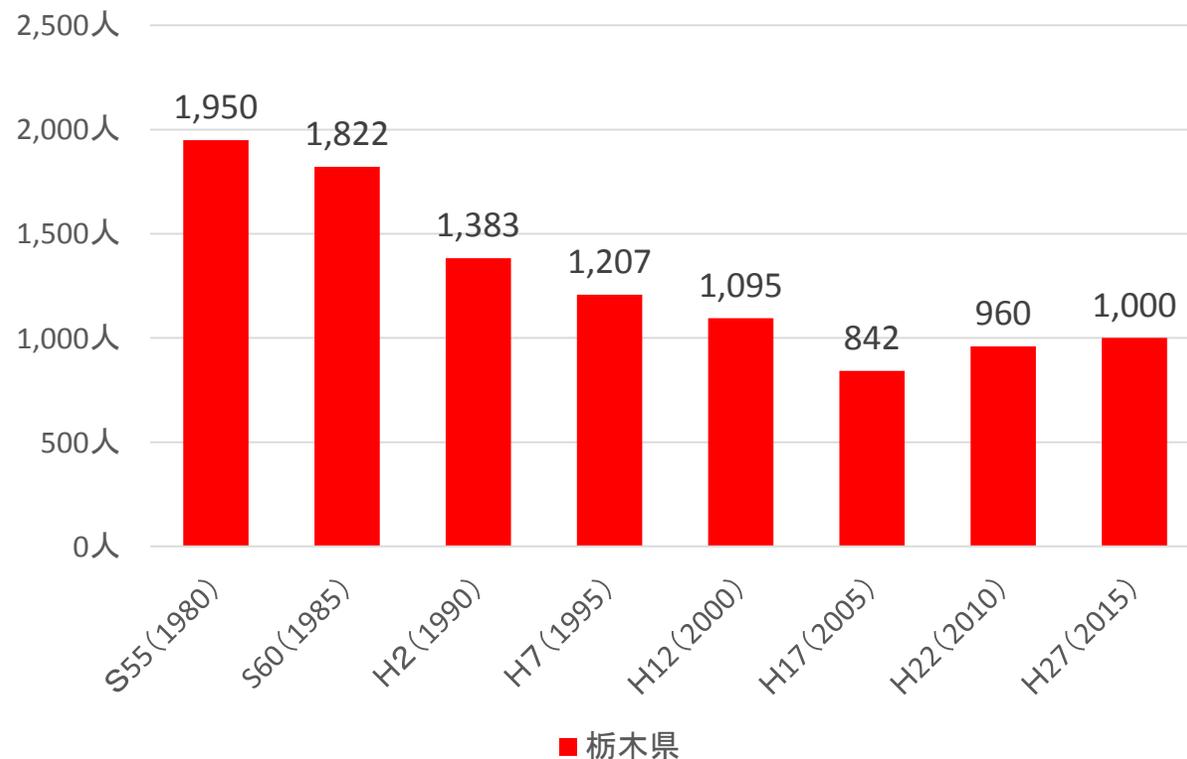
5 林業従事者数の状況

- ◆ 全国的には林業従事者は減少傾向にある。
- ◆ 本県も減少傾向にあったが、近年はほぼ横ばいで推移している。

全国



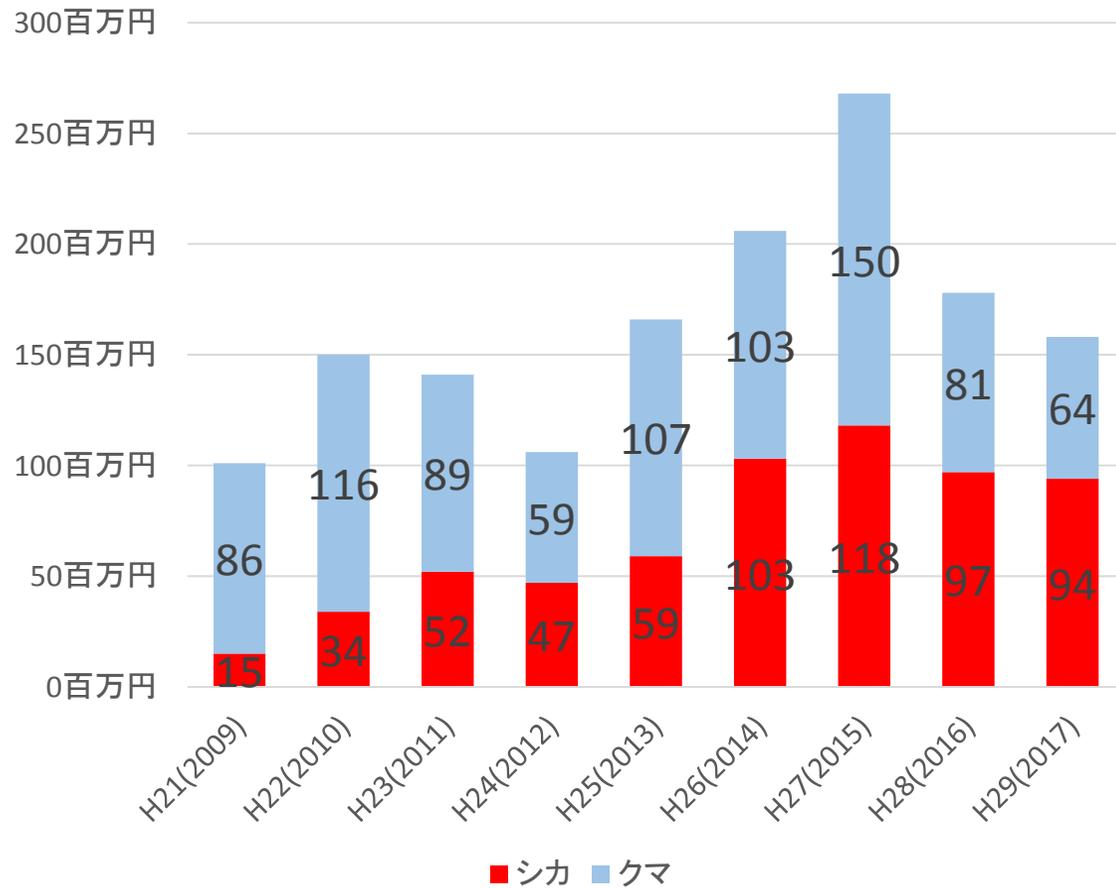
栃木県



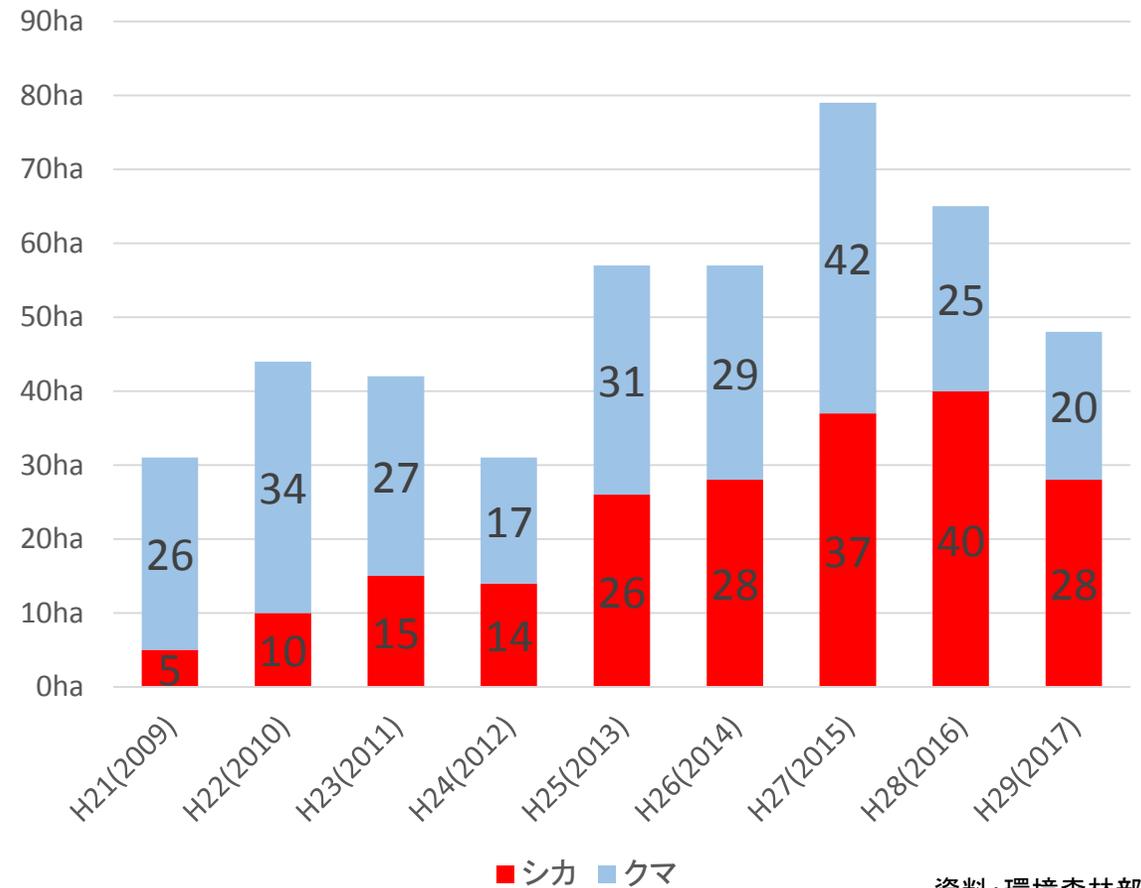
6 野生獣被害の状況

◆ 被害金額・被害面積ともに減少しているが、被害金額が1億円を超えるなど依然として高水準である。

被害金額



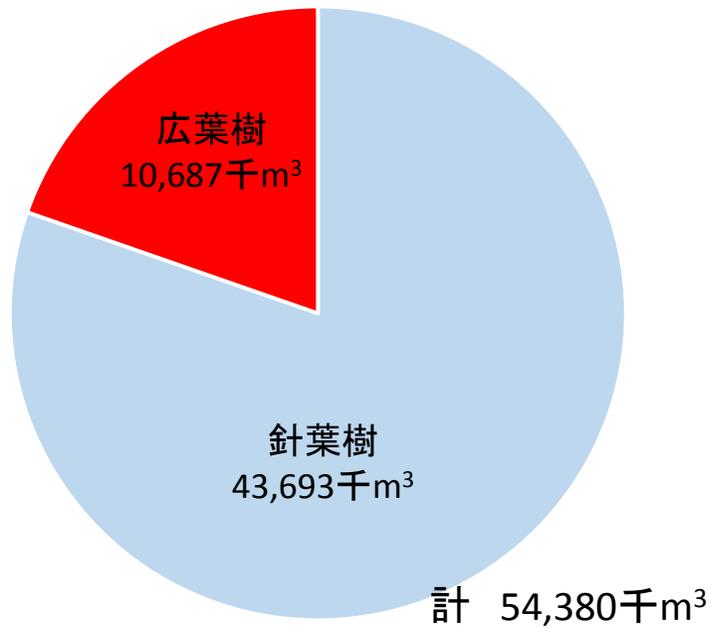
被害面積



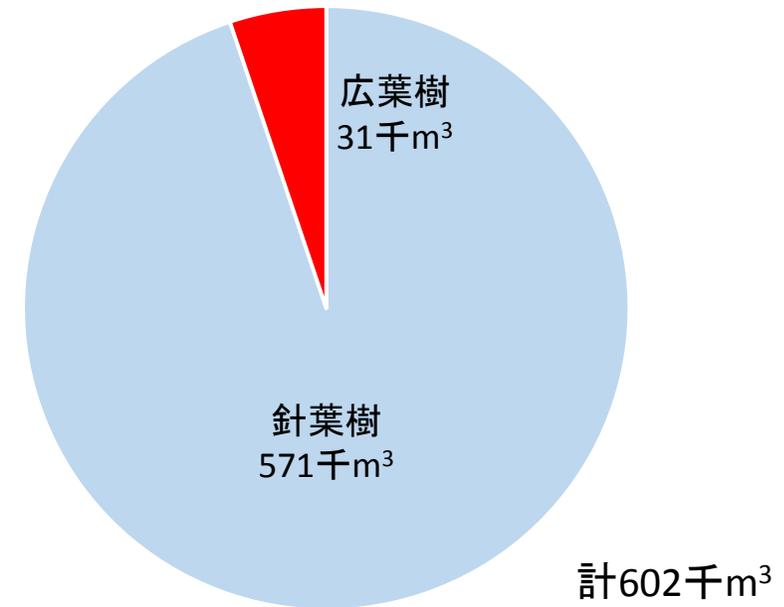
7 広葉樹林の蓄積

- ◆ 戦後、薪炭林として活用されてきたコナラ等の広葉樹林は、昭和30年代の燃料革命・肥料革命以降、蓄積量が増加している。
- ◆ 広葉樹材はバイオマス燃料やパルプ用に加えて建築用材等として有効な資源であるが、あまり利用されていない。

栃木県民有林における蓄積量



栃木県内の素材生産量



8 現状と課題（まとめ）

区分		第2期見直し時	直近	改善状況
◆ 林業経営	供給量、自給率	上昇	上昇	
	林業所得	低迷	低迷	
◆ 多面的機能への理解	水源涵養、災害防止、地球環境保全	5割程度(2016)	5割程度(2018)	
	快適環境、保健、生物多様性	3割未満(2016)	3割超(2018)	
◆ 林齢構成	人工林面積	155千ha(2014)	155千ha(2017)	
	林齢構成(利用期)	70%(2014)	69%(2017)	
◆ 木材需要構造	製材用材	横ばい(2014)	横ばい(2017)	
	合板用材、パルプ・チップ用材、燃料材	増加傾向(2014)	増加傾向(2017)	
◆ 林業従事者数	全国	51,200人(2010)	45,440人(2015)	
	栃木県	960人(2010)	1,000人(2015)	
◆ 野生獣害被害	被害金額	268百万円(2015)	123百万円(2017)	
	被害面積	79ha(2015)	39ha(2017)	
◆ 広葉樹林の蓄積	広葉樹蓄積(民有林)	—	10,687千m ³ (2018)	—
	広葉樹素材生産量(県内)	—	31千m ³ (2018)	

